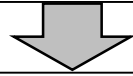


# コア・カリキュラム構成の設定と学習内容・行動目標

## 育成する人物像

- 豊かな教養と生活力を身に付けるために、生活課題を発見し解決する力や情報を適切に判断できる力を、理論と実験・実習を通して修得できる。
- 社会環境や地域社会の問題を捉え、インクルーシブな考えを持ち、学年の枠を超えたプロジェクト活動・研究会活動により、自主的かつ総合的な学びに取り組むことができる。
- 科学的かつ専門性の高い知識・技能に裏付けられ、家庭科教育に実直に向き合う教員を目指し、特に被服実習を強化して専門高校にも対応できる指導力を磨くことができる。



## 教育目標

- 衣食住をはじめとするモノとヒト、環境との相互作用である生活を科学的に探究し、課題解決ができるスキルや生活力を身に付け、社会や地域に貢献できる人材を育成する。
- 家庭科に関する専門性を深めた知識と技能を高め、企画力や継続力等バランスの取れた家政学の探究者及び家庭科教員を育成する。

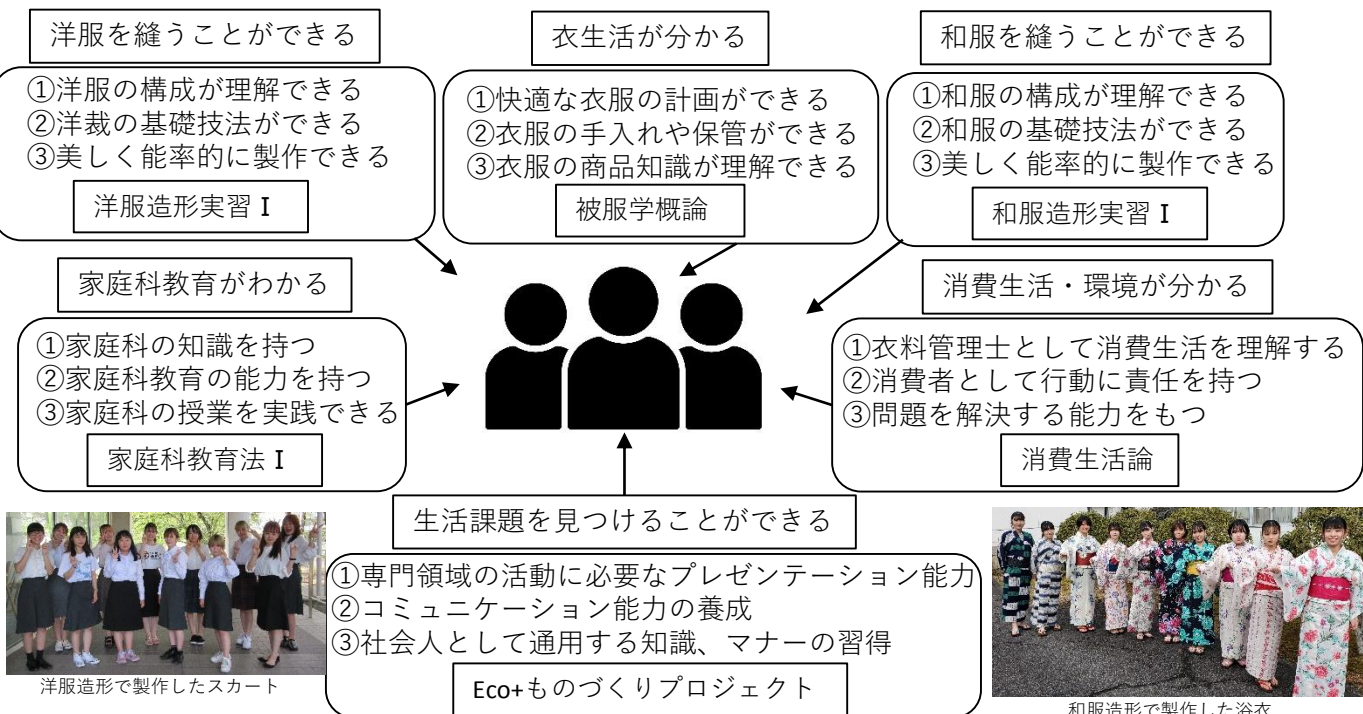
## ■入学前課題

課題は、基礎学力として必要な、数学的能力、国語表現力・読解力の内容を学ばせる。入学後の教養科目や専門科目の理解につながるようにする。

## ■コア・カリキュラム

コア・カリキュラムには問題解決ができるスキルや生活力を身に付け、社会や地域に貢献できる人材の育成と、家庭科教育における衣生活の知識と技術の専門性を身に付けるという教育目標を達成するため「衣生活が分かる」「洋服を縫うことができる」「和服を縫うことができる」「家庭科教育が分かる」「消費生活・環境が分かる」「生活課題を見つけることができる」これら6つの科目を中心に専攻の柱である①人としての品位の養成 ②基礎学力の育成 ③実践力の育成 ④学士力の育成を行う。

## ■コア・カリキュラムとそれを構成する科目



洋服造形で製作したスカート



和服造形で製作した浴衣

## ■コア・カリキュラムと達成目標・評価

15コマの授業において内容と達成目標・評価の実例を示す。

例 「被服学概論」

### 【達成目標】

- ・人間が快適で健康的な衣生活を保持するために必要な被服の計画、造形、着装、管理の能力を身に付ける。

### 【評価方法・指導】

- ・自己評価（受講前・後）をする。
- ・教員による評価（小テストなど）をする。
- ・習得度を把握し、個別指導を行う。

## ■学習内容評価の達成状況

「被服学概論」の【達成状況】

衣生活のあらゆる分野に関わる知識や技術などについて、被服科学・文化・心理的な基礎を学修できている。最近の被服製品を取り扱う場合、材料の機能性や実用性、被服設計などの基本が理解できている。これらを毎回の小レポートでチェックする。